

（議長 寺島渉）

それでは休憩前に引き続き会議を再開いたします。

一般質問を続けます。

発言順位 2 番、議席番号 4 番、目須田修議員を指名いたします。目須田修議員。

（4 番 目須田修）

それでは、町長の就任 1 期 4 年の業績を伺っていきます。

町民に公約されたそれぞれの現状、町長の自己評価をお聞きします。パーセンテージでお示してください。概ね果たせたと思うは何パーセントぐらいでしょうか。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

公約と言いますか、主たる目指す事業、また付随して福祉、医療、教育等々は、継続的に特別にどうこうではなくて、充実をさせていくような事業というような、そういう意味で公約というのを申し上げてきているつもりですが、全体として達成度はどうかと言われれば、極端に言えば、いわゆる第三者が評価していただけるものであって、自分のニュアンスでどうこうというのは、いささか問題があるだろうと思っているわけですが、達成度ということになれば、私は 50 パーセント、世の中いけば十分だろうと思っています。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

では、通告に従い質問していきます。1 番、基幹産業である農業及び産業の拡充政策について成果を伺います。まず後継者づくりについて。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

具体的な質問でございますので、また担当課長から補足をいたしますけれども、農業については平成 24 年以降の話でございますけれども、いわゆる新規就農で就農給付金を支給してきている人たちは、12 名新規に出てきております。そんな状況です。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

では具体的に一つ。農業住宅などの新規就農者用のカリキュラム等のソフトの面はどのように進められていますでしょうか。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（4 番 目須田修）

農業住宅というのは、これからひとまず 3 棟の建設を予定している、そういう意味の農業住宅というようなことであれば、先ほど石川議員に回答申し上げましたとおり、貸付規程等々検討しております。予算に計上されておりますので、事業はもう実施の段階にすぐ入るわけでございます。いわゆる農業住宅のカリキュラムというのは、カリキュラムは一種の教育課程というようなものであろうと判断をして

おりますけれども、住宅のカリキュラムというのはどういう趣旨のご質問でしょうか。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
ハードの部分ではなくて、住宅でなくて、農業学習というような意味のカリキュラムです。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）
お答え申し上げます。これはいわゆる従来からの農業についての学習というか、生産における技術、また学習をするというようなものは、一連のＪＡなどいろいろな関係でございますけれども、私の時代になってからは新たにＩＣＴを使った農業というようなことで、これは今、実証実験をしているところでございますけれども、そういう意味では一つのＩＣＴを使った農業栽培を進めることによって、誰でもがある一定水準までは農業の技術を習得できる、ユニバーサル的な栽培ができるような、そういうかたちへ移行をしていっても良いだろうというような段階を今進めているような状況でございます。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
りんごの学習教室で東京で行われたものは、100 名を超えるという人気な授業になったわけですが、このことも含めて、この町には農業という意味ではプロがたくさんいらっしゃいますね。ほとんどプロの方だというふうに踏んでおりますが、いわゆるソフトを作られるものは、委託される、あるいはされていらっしゃるのでしょうか。

（議長 寺島渉）
土屋産業観光課長。

（産業観光課長 土屋龍彦）
お答えします。新規就農者の育成の関係でございますが、県の新規就農里親支援制度という制度がございます、これは町内の農業者が指導者になって農業者を育成するものでございますけれども、現在、県等が認めた先進農家で、飯綱町には 12 人の里親の指導者がいます。その方たちが、りんごとかももとか水稲とか野菜等の指導をするようなかたちが出来上がっております。以上でございます。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
今の二つをお聞きしているだけでも業績が見えて、進歩している感じが実感しています。そこで、3 番目の販売促進、作られたもののＰＲ活動はどのような業績であるか、お答えください。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）
原則的に私は農産物に限らず工業商品もそうだと思いますけれども、いわゆる農産物といえばＪＡさんがやはり一番販売活動ＰＲをしていくのが主体だろうと思います。行政としてはそのお手伝いをしていくという範囲だと思っております。例えば市場に行って、町長が朝の飯綱町のりんごの販売に立ち会

って、そこで競り主さんのところにうちのりんごは最高だと、こういうような挨拶をして競りに入ってもらふようなことをやるとか、この間も京急電鉄の全ての電車の中に飯綱町のりんごのチラシを 1 枚ずつ出すとか、そういうことはできるわけですが、いわゆる継続的に販売網を開拓して、一定の数量、一定以上の単価で販売をし続けて、品質を維持しながらというような専門的になれば、これはやはりその道の専門の部署がしっかり対応して、そしてそれに応じる利益をちゃんと求めるような団体が対応していくのが本来だというふうに思いますが、行政も精一杯、他の自治体への PR 等々、補助的な意味で頑張っていきたいと思っています。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

今の部分もうちょっと聞かせてください。記憶が曖昧なんですけど、千住の青果市場だと思いますが、ここに飯綱のりんごが入ったということで、そういった活動を町長がなさったと。今後もそういったことも続けていかれる、あるいは進行中だということはございますか。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

これは J A さんと話をしなければどの市場へどれだけの量持っていくというのは、これは行政であそこへ持って行けというわけにはなかなかいかないのがルールだと承知しています。長野県には J A 長野、全農長野、名古屋、大阪それぞれに事務所、九州、北海道と。そういう全農さんと手を組んだ中で、飯綱町のりんごを少し PR する意味でも、行って販売の市に出して欲しいというような働き掛けをして、そこへ出て行くことは、十分用意がございます。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

では、今の質問に連動していますが、生産物販路の拡張支援策の業績を。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

様々なかたちがあるかと思いますが、一つはふるさと納税の返礼品というのも拡張支援策の一つであると考えます。また、ラッピング電車やりんごの関係の PR というのもあるかと思いますが、ふるさと振興公社さん中心ではありますけれど、東京近郊の千葉、埼玉といった辺りの直売所に農作物を売り込みにいくということもあるかと思いますが。収支状況を分析してみますと、本当は都内近郊の直売所に置いてもらうのが一番収支的には良いということを聞いておりまして、そういった東京近郊の直売所にも町内の農作物がいくようなことも、町が具体的に支援しているというよりも、個々の農家さんや J A さんの努力だとは思いますが、町のイメージ戦略を図ってきたと考えています。具体的にはラッピング電車やいろいろな交流事業、また、ふるさと納税などを通じて、町の農作物、飯綱町自体のブランド価値の向上に向けた努力をしてきたと考えております。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

関東エリアでイベントで商品を置いたということをお聞きしましたが、レギュラー化されたところは

あるのでしょうか。

（議長 寺島渉）
小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）
聞いている話ですと東庄町さんや志木市さん、鶴ヶ島市さん、様々な場所に毎年伺っている状況です。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
失礼。レギュラー化というのは、毎年ではなくて、毎月だとか、毎日だとか、週 1 とかとそういった意味です。

（議長 寺島渉）
小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）
交流先の市町村のイベント自体が、1 年に 1 回のものであることが通常ですので、そういったイベントには出掛けているというところです。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
イベントは単発というふうに考えておりますし、目的が違うもので、要するに販路の拡張という意味でお聞きしているんですが、いかがですか。

（議長 寺島渉）
小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）
おっしゃるとおりでイベントは一時的なもので、人件費も掛かりますし、本当は各直売所に実際に置いていただいて、もっと直接的にお得意様をつくるというところではあると思います。
農業委員さんの研修でも昨年行いましたが、販路拡大に精通していらっしゃる方を呼んだ研修会などを行なって拡張支援を行ってきているところです。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
町長にお伺いします。今の販路拡張は、やはり 50 パーセントの達成の達成じゃない方に入っていますか。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）
例えば銀座で飯綱町のアンテナショップを作って、そこで飯綱町の商品が毎日販売されていますよという点では、今の時点では取り組みはゼロです。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは次に行きます。6 次産業、ずっと町長がお話しされていますが、今まで企画されたり、あるいは実施を促したりされていますが、今後の具体的なプランではなくて、今まで町長が望まれて企画されて運営、実施を促していたことに対する業績はどうですか。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

今までの実績ということでございますけれども、私は正直言って大きな一つの目標として取り組んできた事業ですが、やはりこの飯綱町の素晴らしい農産物をもっと大きな道の駅的な拠点施設ができて、そこに貸切りバスが毎日 10 台、20 台も入ってくるというような、そのような所がつくれれば良いなというイメージを持って望んできたわけですが、残念ながらそういう拠点となるべき場所については、農協さんの土地もお借りするのはなかなか難しいということや既存の直売所等を運営されている皆さんたちのグループでも、お店にお客様を持っていかれてしまうような危機感的なものが先に出てきたような感じで、そういう関係の皆さんにご理解をいただくというのが今までの取り組みで、主体的な取り組みについては遅れてきてしまったわけですが、実績として動き出して良かったと思いますのは、例のレジシステムを三つの直売所で共通化して、そしてそのサービスとして、1 日 2 回預かった品物に対しての販売状況をメールで携帯の方へそれぞれの出荷農家に送ってあげるという、このシステムは非常に好評でこんなに元気の出る情報はないと。極端な話、朝に持って行った野菜や出荷したものが、もうお昼には半分以上売れていて、夕方になったらもう終わってしまっていたよと。だから、また明日持っていきたいと。こういうようなことが皆さんの話の中に出るようになりまして、これは非常に素晴らしいことだと思っております。そしてまた、レジを同じくしたことによって、品物を融通し合うということについても、バーコードを張り替えなくて済むわけですから、いろいろな意味で良かったなと思っています。

また、今年度の当初予算でお認めをいただいている直売所の拡張、新しく農家レストランの建築も既に着工しておりますので、設計の方等々でございますけれど、これでいよいよそういう意味では少し目に見えてくるなと思っています。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは次行きます。商業を含めた農業以外の他の産業への支援の成果はどうでしょう。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

一番は商工会に対しての支援というものがあると思っておりますけれども、商工会は県の補助金も減額になるという非常に厳しい中で、何とか町として必要最小限度の額は維持をしてきているというのも一つの商工業の振興のための支援だと思っておりますし、プレミアム商品券の発売もずっと商工会を窓口にして実施をしてきた点、そして今年度いろいろご希望がございましたけれど、また住宅のリフォームの補助等も復活をさせて予算計上した点、また入札制度におきましても町内の業者さんだけで入札をする場合には、最低制限価格を設けさせていただきました。発注者側としてはうれしいわけですが、60 パーセント近いような設計額に対して落札をするというようなことが非常に多くございましたけれども、今は 90 パーセント近いような、本来のやはり利益も残していただいたり、会社の従業員の皆さんたち

の福利厚生もちゃんとやっていただいて、冬は除雪についてもちゃんと協力をいただくというような、そういうような意味で、業者の皆さんにも健全な利益を上げて欲しいということで、そういう制度をやってきたり、なるべく町内で融通ができる商品は、町で購入をして欲しいと各課に話をしてございますし、そんなことで対応をしてきているのが現状です。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

今の答弁の中の非常に好評であるというプレミアム商品券についてですが、補助がなくて自立できるのが一番理想だと思うんですけども、このプレミアム商品券を実施されてきての改良点はございますか。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

商工会の関係者との話し合いを持った中では、若干、一部の商店にプレミアム商品券での購買が集中しているという傾向がございますねと。数社で大体皆さんお使いになっていると。そういう点では商業者の皆さん全体に等しく皆さんお買物されているというような点については、お店によってはアンバランス的なものがありますねというようなことがございますけれども、ただ子育て世帯へはもっと応分の支援をしたプレミアム商品券にしておりますし、全体としては好評いただいていると思います。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは町長の 3 本の柱の産業について以上にします。2 番目、育児と教育施策の成果について伺います。この特に育児に対しての支援策の業績はいかがでしょうか。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

議員、個々の質問が非常に多くございますので端的に申し上げますけれども、育児については少し充実したのではないかなと、子育ての応援対策です。例の出産時に誕生祝金をを申し上げるというような支援策。そして、保育園卒園、小学校卒業、中学校卒業等々におけるお祝い金の支給、奨学金等々、かなり充実をしてきていると思います。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

では 3 番目の福祉施策について伺います。介護保険事業政策、非常に具体的ですが、ご答弁お願いいたします。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

介護保険は特に老人福祉についての大きな重点事項として捉えてございますけれども、介護保険の一

つは保険料をいかに抑えていくかということを中心に組み立てまいりました。おかげさまで今第 6 期を迎えておりますけれど、5 期から 6 期へ向かうには、月平均の標準額でございますけれど、50 円のアップにとどめてきているというような点でございます。

反面、給付、いわゆる介護を受ける皆さんの関係については、これはなかなか料金の負担金の割合が 1 割から 2 割になるとか、いろいろなものがございまして。私は社協以外の福祉法人に大きな意味で直接の支援というのは、なかなか難しく今のところやっていない面も多いわけですが、社会福祉協議会については、職員の賃金制度の充実、また社協全体の運営の支援等々について、かなり重点的に進めてきたつもりでおります。

（議長 寺島 渉）

目須田議員。

（4 番 目須田 修）

ただいまの介護される側の費用負担に少し答弁いただいたので、介護施設と介護福祉士の確保、これは充実したのか完璧なのか、お伺いします。

（議長 寺島 渉）

峯村町長。

（町長 峯村 勝盛）

介護の施設については、私は、今みつえなり社協も含めて、現在の状況で私はほぼ充足をしている状況にはあるだろうと思います。社協は少し利用される方が減少しているような傾向もございまして。

あと、特養については長野広域の関係でお世話になってございますけれども、やはり特養施設については少し不足というのは継続的にまだそういう状況にあるだろうと、そんなふうに判断しています。

介護福祉士の関係については、行政で直接そういう皆さんを育成したり確保するという立場にはないわけですが、担当課長によろしければ答弁させていただきます。

（議長 寺島 渉）

高橋保健福祉課長。

（保健福祉課長 高橋 明彦）

介護福祉士の件でございますが、現在、町内に 100 人ほど介護福祉士という資格を持った方はいます。ただ、現状介護福祉士がいなくても介護保険サービス事業においては、必ず介護福祉士を置かなければならないということではございません。介護の研修を修了して携わる、要するに職員の方もおりますので、この辺含めましては充実していると感じております。

（議長 寺島 渉）

目須田議員。

（4 番 目須田 修）

充実されているということで受け取りました。それでは、今の介護する側の施設とかスタッフ等は充実とお聞きしたんですが、その福祉士を含めたサービススタッフの待遇、具体的には給与なり労働時間とありますが、内容は改善されているとか、あるいは十分だとか、具体的にお願いします。

（議長 寺島 渉）

高橋保健福祉課長。

（保健福祉課長 高橋 明彦）

各事業所における介護福祉士等の報酬等、待遇等については、特に町としては大きな関わりは持っておりません。ただ、国としましては、介護現場の報酬が非常に安いということはもう全国版に載っております。現在、今年の 4 月からは、福祉介護職員の待遇改善、加算拡充というようなことで、新

たな政策が加わってございます。また、経験年数とか資格に応じて昇給する制度もこの 4 月から新たに加わっているということでございますので、国の施策としてはかなり拡充されたのだとは思っております。ただ、町内の事業所、特に社協さん辺りでも聞きますけれども、現在、給料表の改定等行いまして、俸給的にはアップはされておりますけれども、先ほど町長申しましたけれども、介護報酬等も少なくなっておるということでございますので、国で思っているほど上がっていないのが現状だというふうにお聞きしています。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは先ほどの介護される側の費用負担の件ですが、政府が出した介護サービス利用料 3 割負担導入、これについてどのように受け止めていますか。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

サービスを受ける住民にとっては、やはり利用料のアップというのは、私はそれはできれば避けて欲しいと思うのが普通だと思いますが、いわゆる 2025 年、ちょうど私どもが 75 才ぐらいになる、この団塊の世代が一気に介護の世界に入っていくようなこの需要を見ますと、一定の所得に応じた制度にはなっておりますけれども、やはり介護料の一部負担を増やしていくというのは、当面の措置としてはやむを得ないものかなという判断は持っております。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは介護から医療について少しお聞きします。医療及び看護の政策に対しての業績をお願いします。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

医療につきましては、飯綱病院が町立の病院でございますので、飯綱病院についてのお答えが中心になりますけれども、お医者さんの数、これについてもこの任期中、標欠、足りないという状況はございませんでした。併せて看護師さんについても同様の標欠は無しということが続いております。これはありがたいことですが、しかし、今年の 1 月、2 月等々、非常に骨折等の患者さんが多くて、夜のオペ等が非常に多いというような時には、やはり看護師さんの不足、長時間勤務等々の現場としては、かなり苦しいところを乗り越えてきたというような報告も聞いてございます。ただ総体としては、飯綱病院、仮決算ではございますけれども、赤字を 1400 万程度に抑えたという今までに例のない素晴らしい決算内容の話を聞いて喜んでおります。正式にはまだ 9 月にならないと決算として皆さんに報告をする段階ではないと思っておりますが、全体としては現場が非常に努力をされて住民の安心、安全を守っていただいていると判断をしております。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは住民の健康施策についてお聞きします。2014 年 12 月、一般質問で私はインドアの健康ジムの設置を提案しております。今年一部の地域で実現したことは非常にありがたいことです。そこで、我

が町は健康長寿の町づくり宣言をしました。お伺いします。他の議員から、今後福井団地以外にもジム施設はとの質問に、跡利用でアレンジできればよいと考えるが特にこの集落にという予定はないと答えております。それでは他の集落の健康については、どのように考えていらっしゃいますか。

（議長 寺島渉）
高橋保健福祉課長。

（保健福祉課長 高橋明彦）

今、議員さんおっしゃられたとおり、昨年 12 月に健康づくり宣言を出させていただいたわけでございます。特にインドアのジム等に限らず、健康づくり宣言にもありましたように検診の受診率を高めるというような方策、これにつきましては 3 月の議会にもありましたけれども、がん検診の自己負担を減額しております。これによって健康管理をしていただくということでございます。

また、食生活の改善につきましても今年度アンケート調査を実施しております。塩分控えめというようなかたち、その他諸々の食生活改善をうたっております。

あと、運動しやすい環境ということですが、特にインドアということではございませんけれども、昨年から実施しておりますスロージョギング、今年度も強化してございます。それに加えて、タイアップさせていただくのは、タニタの健康プログラムということで、食の部分、また運動の部分というようなことも併せて町内で実施する予定でございます。

あと、地域の健康づくりということで今までもやっておるんですけれども、保健指導員さんを通じながら地区の健康教室というようなことで、健康づくりを実施していきたいというふうに考えております。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは 4 番目に行きます。町長の公約の一丸となった新しい町づくりについて具体的に何かございますか。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

一丸というのは、捉え方がいろいろあると思いますけれども、決してみんなで手をつないで全部一つの方へみんなで向かおうねというわけではございません。いわゆる飯綱町というものを、飯綱町を一つの単位として、福祉なり、医療なり、教育なりを考えていこうと。こういう大きな意味で事業を進めてきたつもりでございます。そういう意味で言えば、私は余り役場周辺、牟礼なら牟礼周辺にいろいろなものが集中して、コンパクトシティみたいなのも良いですけど、やはりその地域、赤東なら赤東、西地区は西地区、芋川なら芋川、平出なら平出というところにおいても、ちゃんとそれなりの存在があって、それなりの賑やかさが保てるような行政というのを展開していかなければいけないだろうというのが、いわゆる一つになった町の一つになった考え方という行政の展開、そういう抽象的なそういう総称的な意味で申し上げました。

従って、一丸となった取り組みによって、こういうことが生まれてきましたという具体的なものというのは、用意はしておりませんが、大きな意味でご理解をいただいたのは、保育園の統合、小学校の統合等々については、そんな判断の中で皆さんが一つになっていただいているのかなというイメージは持っております。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは町長が道半ばであろうという課題を質問させていただきます。人口減少時代の集落に新たな問

題は生じておりますか。あるいは確認されておりますか。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

この後にも同様のご質問がございますけれど、私、大きな行政課題だというふうに思っております。いわゆる二つ大きな問題がございます。人が減ることによって本来集落で維持していかなければならない機能が失われていく。道や水路とか、またはお祭りや公民館とか。そういういわゆるソフト、ハードを含めた集落というものを維持することが非常に困難な状況になってくるというのが一つ。

また、全体として規模が小さく、町が小さくなっていきますと、そこに集落に対しての財政的支援が非常に難しくなってくるだろうと。その辺が大きなこれからの課題だと思っています。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
課題ですので、対策はこれからというふうに考えてよろしいですか。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

今、区長会等々も通じて、新しい単位で集落というものをもう 1 回捉えようというような試みもこれからお話をしていく予定でございますけれど、今、地方創生でやっている事業自体もこれは大きな意味では集落の支援事業でございますし、私が就任してすぐ集落へ 1 人 4 千円の支援で、ちょっと分配的な予算の使い方ではないかなというご指摘もいただきましたけれども、それから後の今ソフト事業で計画を立てたところには、5 万円の支援をしていきたいと。事業費で言えば 300 万円の支援をしていきたいというのは、これは正しく将来を含めて検討してもらおう支援をしていくための施策を実施しているところでございます。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは町の未来ビジョンについて、この町のビジョン策定に当たり必要なことは、持続可能な生産と消費、そして販売を意識することと考えます。そこで、コンパクトな自治体による小さな町の便利な行政を未来ビジョンとすることを提案します。いかがですか。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

非常にコンパクトに抽象的にまとめていらっしゃるんですけど、理念として私はそのとおりだろうと思います。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

では、今集落の問題に出ましたが、地域活性と人口政策について、若者の当町への移住政策、これは

いかがでしょう。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

今、栄町に移住相談、移住コンシェルジュを置いてやろうということで、事務所がそろそろ開業できるのではないかなと思っておりますけれども、もう一つ、やはり今、飯綱町に来て住みたい、農業やりたい、家はどこへ住めば良いかと聞かれても、お宅で適当に考えてくださいと言うしか今のところ答弁が無いようなぐらい、空き家も駄目、新築のアパート等についても空きがない、公営住宅にも空きがない、そして人が来て欲しい来て欲しいと、こういうふうに今言っているのが現実だと思います。

石川議員からもありましたけれども、何とか受け入れ態勢の整備ということも合わせてやっていかないと人口増には結び付かないなと思っています。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

もう一つ、若者住宅予定地に関して一つお聞きしておきます。希望の住宅建設に不適合という調査の結果出たんですが、掛けた費用を超える価格で転売という案も考えられると思います。何かアイデアはあるんでしょうか。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

今年は飯綱病院の駐車場を病院と平らな駐車場にするために、仮設の駐車場として今の話題の土地を利用する予定にしておりますけれど、山本食品さんが工場を造って 30 人ほどの従業員を採用したいというような話も聞いてございますけれど、今時点としてはやはり住宅を基本に考えていきたいと思っています。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは地方創生についてお伺いします。特に小澤副町長にお伺いします。2 年間の業績をお伺いしますが、我が町の地方創生企画のうち、小澤副町長が打ち出している飯綱町らしさ、このキーワードにそぐう企画はどれを言いますか。そして、それはいつ頃までに完成、あるいは目的に到達される予定なのかをお答えください。まず一つ、町づくりはどうですか。

（議長 寺島渉）
小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

飯綱町らしさは、町民お一人お一人にとっての飯綱町らしさということで、一つ定まったものというのは難しいとは思いますが、総合計画において皆様方のご審議をいただいた上で設定したものとしましては、りんごと女性、この二つに焦点を当てることが、飯綱町らしい町づくりというところで設定をしたものであります。

そして、完成ということでございますが、町の課題というのは常に生まれ続けてきますので、ここで完成、あとは何もしなくて良いというような時点は、永遠に来ないと考えています。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
それでは確認します。飯綱町らしさというのは、個人の感性だということの確認でよろしいですか。

（議長 寺島渉）
小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）
そのとおりです。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
分かりました。町づくり、農業の分野、観光の分野、住民の生活分野、教育の分野、スポーツの分野、文化の分野、全て個人の感性ということで、お答えいただいたということで次に進みます。
我が町への地方創生関連での国庫補助金等の総額は、お幾らでしょう。

（議長 寺島渉）
小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）
お答えします。これまでの実績としまして国庫補助金等の総額は約 2 億。そして、今後の 5 年間の予定を含めると約 9.6 億というところでございます。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
確認します。本日までの実績、総額アバウト 2 億でよろしいですね。我が町の地方創生企画で持続性があり、つまり継続が可能で発展しそうな企画はどういうものでしょうか。

（議長 寺島渉）
小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）
地方創生が元々人口減少対策ということで、これは町の最重要課題の一つであると考えています。ですので、国庫補助金が付かなければやらないという事業は一つもないということで、事業を進めていくに当たっては、持続性の確保ということを第一に考えてまいりました。具体的には個々の事業での自主財源の確保や収支の均衡、また投下資本の回収というところが基本になってくるとは思います。つまり持続性があり発展しそうな企画というのは、逆を言えば持続していかなければ町の存続は危ういということで、全ての事業が持続可能であると考えています。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
もう一度確認します。全て企画されたものは、持続可能なものであるというふうにお答えしていますか。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

はい、予算規模の大小はあったとしても、持続可能であると考えています。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

ということは、予算規模の大小とただし書が付きましたが、補助がなくなると継続ができなくなるものは無いというふうに捉えてよろしいのでしょうか。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

はい、地方創生の事業は、農業振興、健康長寿、公共交通網の維持存続、仕事・雇用の創出、そして美しい自然景観の維持という、5 つを大きく行っていますけれど、いずれの事業もやっていかなければいけないものであるということで、持続可能かというよりも持続させていかなければならないというような気持ちが大切であると考えています。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは関連して質問します。持続可能、あるいは持続していかなければならないもので、補助が無くなると継続できなくなるものが無いということになると、一番短い達成のものはどのくらいの先にある、長いものはどこまであるのか、お答えください。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

当面の目標としましては、4 年後といった事業の期間設定はしております。農業振興策については、例えば農業所得の向上というのを一つ数値目標として掲げていまして、2 年前、約 2.2 億であったのが、現在、1 億ほど増えたということで所得の向上や、そういった数値目標をきちんと達成していくというところが大切であると思います。

短い点でいけば 4 年後、5 年後というものを一つの事業の区切りとはしておりますが、元々の理念としての農業振興や公共交通網を維持していかなければいけないといった地方創生の事業そのものは、ずっとやっていかなければいけないものと思っています。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは国へ申請して認められなかった企画はありますか。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

細かく費用計上をして、この点は見直しをとすることはありましたが、主だったもので申請して認められなかった企画はありません。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは課題についてお伺いします。現在進行中で国に提出してある企画についてお伺いします。副町長は現在進行中のものは、そのままというわけにはいかないが、スキルアップすることで予算をいただけることになるかと答えられています。そこでお伺いします。小澤副町長が中央に戻られた後、残された企画のスキルアップは誰がどのように進めるようになっていきますか。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

石川議員の答弁でも申し上げましたが、庁内に横断的な組織ということで地方創生を推進するプロジェクトチームを立ち上げました。そこで、事業をきちんと推進していただきたいと思っております。

今、プロジェクトのリーダーを企画課長にお願いしておりますが、そういったリーダーの方中心に推進していききたいと考えております。

あと、国からまだ正式な連絡は何もありませんので、もう辞める前提で話をするのがいかなものかという感じが若干するわけですが、仮にどこかのタイミングで任期が終わったとしても、それでもう私と飯綱町のつながりが全く終了で金輪際無いというようなことでは全くありません。地方創生コンシェルジュという制度がありまして、そういった制度で長野県の担当として今後も国とのパイプ役や相談役、そういったものを請け負っていききたいと考えておりますので、どうか終わってからも見捨てないでいただきたいというところをお願いして、お答えとしたいと思います。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

すみません確認します。とても大事なことで、失礼なことを申し上げたかもしれないので、確認させてください。まだ中央に戻るということは決定していないということ。そうすると歓送会の予定も未定ということでしょうか。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

飯綱町の条例では副町長の任期は 4 年であるということだけを、お答えさせていただきたいと思いません。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは 2 年間活動されて、本当に住民が欲しているものは何なのかお分かりになりましたでしょうか。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

最初に人口ビジョンで町民の方にアンケートをしまして、欲しているものとしては、端的にはスーパー、そして交通の便が良いこと、そして雪の課題、そして子育て支援の充実、そして働く場所というように、本当にお一人お一人の生活に密着した切実な願いというのが、正に解決すべきところであって、余り抽象的な理念を追い求めるのではなく、そういった正にお一人お一人の生活が具体的に向上するようないことが一番求められていると思います。そういった意味では、決算議会が今度あるかと思いますが、若干ではありますが所得は向上したということだけご報告させていただきたいと思います。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは一つだけ。今お答えいただいた町民の欲しているもののお答えなんですが、これは町長が 3 本柱の一つとしている生活基盤の充実、こういうことに当たると言うんですが、そこで気が付かれたということになると、今後もし、居てくださるということになった場合には、こちらの方に力入ると予測してもよろしいのでしょうか。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

なるべく居たいとは思いますが、国に戻らないと逆にできないことというのものもあるかと思います。帰りますと飯綱町だけのための活動は難しいわけですが、日本が、そしてこの地域が活気あるものになるように全力で取り組んでいきたいと思っています。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

それでは具体的に数字のことでお聞きます。小澤副町長が飯綱町に、この町に就任されてから退任するまでのおよそ 2 年間の給与、それは見込みも含めて総額はお幾らなのか。そして、それは町からの支払いで間違いないのかどうか、確認します。

（議長 寺島渉）

荒井総務課長。

（総務課長 荒井和己）

給料につきましては、1600 万円程度になります。全て町からの支払いでございます。

（議長 寺島渉）

目須田議員。

（4 番 目須田修）

では共済負担額、退職金積立金等の負担総額がありますが、いかほどでしょうか。

（議長 寺島渉）

荒井総務課長。

（総務課長 荒井和己）
600 万程度になります。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
それは 2 年間でしょうか。

（議長 寺島渉）
荒井総務課長。

（総務課長 荒井和己）
はい。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
就任期間中に必要経費と認められ、小澤副町長に支払われた費用の総額はお幾らですか。

（議長 寺島渉）
荒井総務課長。

（総務課長 荒井和己）
主に小澤副町長に東京へ行っていただいたものや、創生の関係で名古屋、金沢等に行っていただいた旅費でございますので、20 万円程度でございます。

（議長 寺島渉）
目須田議員。

（4 番 目須田修）
以上です。どうもありがとうございました。

（議長 寺島渉）
目須田議員、ご苦労様でした。
ただいまから暫時休憩に入ります。再開は 11 時 20 分。